

わが

「健康で笑顔あふれる元気都市 白山」 の実現に向けて

こころい「白山」

白山市は、県都金沢市の南西部に位置し、県内最大の広さを誇ります。日本三名山の一つ白山(標高2702m)周辺は、白山ユネ



白山

スコエコパークや白山国立公園に指定されています。また、標高差と環境変化に富んだ本市は、県内最大流域面積の手取川や日本海など、豊かな自然と豊富な地下水に恵まれ、市全域が「白山手取川ジオパーク」として日本ジオパークに認定されています。

「白山手取川ジオパーク」は、日本の地質学発祥の地である桑島化石壁をはじめ、ほかでは見られない白山の雪解け水が手取川として日本海に流れ出る「水の旅」をテーマとしております。本市の魅力を多くの方に知ってもらい、楽しんでもらうため「ジオフォトロゲイニング」や「まち歩きジオツアー」を開催するなど、市民と一体になった活動を積み重ねており、さらに「ジオツーリズム」を推進することにより、郷土の魅力の発信



白山白川郷ホワイトロードの紅葉(蛇谷大橋)

むほか、白山手取川ジオパークを巡るウォーキングマップの活用や、ウォーキングイベントの開催など、健康づくりを進めてまいります。

また、白山から日本海まで広大な面積

や地域の活性化を目指してまいります。

また、本市は北陸新幹線の白山総合車両所、在来線の金沢総合車両所、北陸鉄道の鶴来車両工場の三つの鉄道関連施設が立地している、全国的にも珍しい鉄道と共存共栄する市です。これら白山総合車両所などの活用と、脈々と受け継がれてきた歴史と伝統文化など、多くの優れた観光資源や誇れる産業をつなぎ、観光と産業の振

人生100年時代

本年3月、誰もが夢や希望を持ち続け、市民も、自然も、まちも、すべてのものが健康であることを願い、「健康都市 白山」を宣言いたしました。市民の皆さまが健康で生き生きと活躍され、100歳になっても元気に暮らせる「ふるさと白山市」を目指してまいります。

その第一歩として本年は、予防接種事業の助成拡充、検診事業の無料化・対象拡充や生活習慣病の予防対策などの予防事業に取り組

を有する本市では、さまざまな災害が想定され、常日頃から災害に備えた対策を進めるため、防災行政無線の戸別受信機を全地域に配置し、防災体制の充実強化を図るほか、防犯カメラの設置などにより防犯力の向上に努め、市民の安全・安心な暮らしの確保に努めてまいります。

産学官民で「SDGs 未来都市」の実現

2018年6月に、内閣府から選定を受けました「SDGs 未来都市」の実現に向け、産学官民連携による協力体制の下、SDGsのさらなる普及啓発に努めることとしております。同年11月には、金沢工業大学と株式会社NTTドコモ北陸支社と、連携協定を締結し、5GやICTなどの先端技術を活用した、データ分析などによる自然環境の保全、地域課題の解決、関係人口の創出などを目指すこととしております。さらに、本年2月には金沢大学が、3月には東京大学地域未来社会連携研究機構が本市の白峰地区にサテライト拠点を設置し、本市と連携してジオパークなどの研究やSDGsの推進に

取り進むこととしております。

また、教育面では子どもたちが分かりやすくSDGsを学び、触れることができるよう、小学校高学年の児童を対象に、外部講師による普及啓発に取り組みとともに、ロボットを動かせるプログラミング教材を活用し、楽しみながら、プログラミング的思考力が身に付く活動にも取り組むこととしており、こうした学習の場を通してSDGsの推進を図ってまいります。

主役は市民一人一人

私は2014年に市長就任以来、「対話と参加」による市政運営を基



白山山頂の日の出

本とし、一人でも多くの市民の皆さまの声を聴きたいという思いから、「まちづくり会議」を市内全域で開催し、貴重な意見を可能な限り市政に反映するとともに、市民参画を進めてまいりました。

また、市民協働のまちづくりに向けて、第一歩となる「市民提案型まちづくり支援事業」や「まちづくり塾」を開催し、地域課題を共有し、市民が地域課題に対し

プロフィール

- ◆ 面積 754・93 km²
- ◆ 人口 11万3459人
- ◆ 世帯数 4万4050世帯

〔将来都市像〕健康で笑顔あふれる元気都市 白山

〔まちの特徴〕「山・川・海」の豊かな自然と豊富な地下水に恵まれ、歴史と伝統文化が息づくまち

〔市町村合併〕2005年2月1日、松任市、美川町、鶴来町、河内村、吉野谷村、鳥越村、尾口村、白峰村



白山市長
山田憲昭



て、自ら考え、解決し、活性化を目指す取り組みとして「市民協働で創るまちづくり」の推進に努めてまいりました。

今後は、「新しい地域コミュニティ組織」の設立に向けたモデル地区の選定や地域予算制度の創設に取り組み、「住んで良かった」住み続けたい」と実感できるまちづくりの実現に向け、「オール白山」体制で取り組んでまいります。

〔特産品〕堅豆腐、とち餅、白山菊酒、ふぐの卵巣の糠漬け、白山百膳、あんころ餅、剣崎なんば

〔観光〕白山国立公園、白峰重要伝統的建造物群保存地区、手取峽谷、白山比咩神社、白山美川伏流水群

〔イベント〕雪だるままつり、鳥越一向一揆まつり、ほうらい祭り、美川おかえり祭り、白山白川郷100kmウルトラマラソン

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

地域の魅力と活力にあふれる 暮らしやすいまちを目指して

豊かな自然と 文化遺産が誇り

那須烏山市は、栃木県東部に位置し、県都宇都宮市からJR烏山線や車で約55分の場所にあります。清流那珂川が流れる緑豊かな自然に恵まれたまちです。また、450年以上受け継がれ、2016



那珂川と市街地

年に全国33の祭礼行事とともに山・鉾・屋台行事として、ユネスコ無形文化遺産に登録された「烏山の山あげ行事」や2018年、築城600年を迎えた烏山城跡に代表される歴史と文化が魅力の城下町でもあります。

烏山の山あげ行事は、7月の第4土曜日を含む金・土・日の3日間、6町輪番により烏山市街地で繰り広げられる日本最大の移動式野外劇です。道路上に奥行き100mに及ぶ大掛かりな舞台装置(大山、中山、前山、館など)を遠近よく配置し、それらを舞台背景に、烏山山あげ保存会芸能部会による常磐津の三味線や浄瑠璃に合わせて三番叟、将門、戻橋、蛇姫様などの歌舞伎舞踊が上演されます。舞台装置の組み立て、片付け、移動は、すべて若衆の手作業で行われます。演目の進行に合わせて変化する舞台背景や若衆の一条乱れぬ動きは必見です。また、若衆が気持ちを一つにして高さ10mを優に超える大山をあげる様子は圧巻で、祭りの名前の由来になっています。さらには、地元長者



龍門の滝と蓄電池駆動電車ACCUM(アキユム)

伝説が残る国史跡の「長者ヶ平官衙遺跡附東山道跡」、国選択無形文化財の「程村紙」、国選択無形民俗文化財「塙の天祭」、近代化遺産の数々など貴重な文化遺産があります。

のどかな田園地帯や、「龍門の滝」といわれる滝の上を走るように見えるJR烏山線は、環境に配

慮された蓄電池駆動電車ACCUM(アキユム)が導入されましたので、この機会に本市にお出掛けください。

本市のまちづくりの課題

さて、本市を取り巻く環境は、この10年間で人口が4千人以上減少するなど、人口減少・少子高齢化が顕著であり、地域経済の縮小、地域コミュニティ機能の低下、伝統文化の保存・継承が困難になるほか、空き家の増加による生活環境の悪化など、さまざまな影響が懸念されています。そのようなか、将来にわたって住み慣れた地域で安心して生活ができるよう、持続可能なまちづくりを目指して、2018年3月に第2次総合計画を策定しました。本市が直面するまちづくりの課題を、少子高齢化・人口減少、市民との協働のまちづくり、安心して暮らせる地域づくり、地域資源を活用したまちづくり・人づくり、地域産業・経済を取り巻く状況の変化、安心



日本一の移動式野外劇「烏山の山あげ行事」

安全なまちづくり、財政状況、老朽化の進む公共施設の8項目に整理して、2022年までの基本目標と政策体系を定め、オール那須烏山の体制を構築しながら、課題の克服に向けた政策・施策に取り組んでいます。

特色ある事業の紹介

本市では2008年4月から構造改革特区により、全児童生徒が英語を通して広い視野と豊かなコミュニケーション能力を育成するため、英語コミュニケーション科

を新設し、英語への関心、表現や理解する力などを身に付けるとともに、言語や文化の知識などを学ぶ英語教育の充実を図っています。また、中学生を対象に英語検定試験の受験料の補助を行い、英語教育に関する支援の充実を図っています。

次に東日本大震災で被災した学校給食センターの新設に当たっては、保護者からの要望などを踏まえ、食物アレルギーの児童に配慮した施設を整備しました。専用の調理室や調理器具を備えるとともに、専属の調理員を配置し、卵、乳、乳製品の除去代替食の提供、専用食器による配食など、安全安心な給食を提供できる環境で運営しています。

続いて、2008年に総務省の地域ICT利活用モデル構築事業を受託して児童見守りシステムなどを構築しました。全児童が登下校時にICカードをカードリーダーにかざし、登校・下校といったメールを保護者などに送信し、児童の安全や帰宅時間の確認に役立っています。また、このシステムで学校情報の一斉配信など効率的な運用も図っています。

最後に地元の県立烏山高等学校との連携事業「からすやまがく烏山学」を紹介したいと思います。地域に学ぶ地域課題解決学習を通して、烏山和紙づくり体験(卒業証書を自ら書く)と後継者不足の解消策の検討、先進地の視察による本市ジオパーク

プロフィール

- ◆ 面積 174.35 km²
- ◆ 人口 2万6442人
- ◆ 世帯数 1万5555世帯

〔将来都市像〕地域の魅力と活力にあふれる 暮らしやすいまち、那須烏山。

〔まちの特徴〕豊かな自然の恵みを受けた農業を基幹産業に、数々の史跡や日本一の移動式野外劇「烏山の山あげ行事」など歴史と文化が息づくまち

〔市町村合併〕2005年10月1日、南那須町と烏山町が合併して那須烏山市が誕生

〔特産品〕烏山和紙、地酒、中山カボチャ、ナシ、イチゴ、八溝そば、からすだいこん、島田うどん、なすからブランド認証品(ふわたら、中山かぼちゃ)



那須烏山市長
川俣純子



構想の推進策の検討、烏山の山あげ行事の体験学習を通じた地域課題への理解など、こうした地域課題解決型のキャリア教育の中で、将来の進路と真剣に向き合う、本市の未来を担う人材の育成を図れたものと思っています。

〔観光〕那珂川・荒川(鮎釣り)、観光ヤナ、観光果樹園(イチゴ、ミカン、ブドウ、リンゴ、クリ、ブルーベリー、サクランボ、モモ)、龍門の滝、山あげ会館、烏山和紙会館、烏山城跡、境橋、洞窟酒蔵、カヌー、パラグライダー

〔イベント〕山あげ祭(ユネスコ無形文化遺産・烏山の山あげ行事)、八溝そば街道そばまつり、那須烏山市民秋まつり

※面積は国土地理院「全国都府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

御坊市（和歌山県）

御坊市長

柏木征夫

わが

ひとが輝き
いきいきと暮らせるまち

はじめに

御坊市は、和歌山県の海岸線のほぼ中央部に位置し、市の北部には白馬山脈が、中央部には清流豊かな日高川が流れる海・山・川の自然に恵まれた紀中地域の中核都市です。地名の起りである「御坊様」と呼ばれた本願寺日高別院を中心とした寺内町や日本最古といわれる弥生時代のヤリガンナの鋳型が発見された堅田遺跡、長い黒髪が取り持つ縁で文武天皇の妃となった「宮子姫」の生誕伝説などがあり、自然と歴史、ロマンあふれるまちです。

「ひと」が輝くまちづくり

本市の主な産業は、温暖な気候を活かした農業で、温州みかん、イチゴや小玉スイカをはじめとす

るフルーツ類、野菜類、豆類など多種多様な作物が栽培されています。中でも、県やJ A、生産者と協力して発展させてきた花き栽培では、スターチス、かすみ草は全国有数の出荷量を誇るまで成長しています。

水産業では、アジ・サバ、アワビなどの貝類、海藻類など沿岸漁業が盛んで、早くから資源管理型の育てる漁業への転換や観光分野との連携など、収益の安定化と経営の近代化を進めてきました。

工業面では、奥日高の集散地として発展してきた木材産業のほか、プラスチック成型企業をはじめ、さまざまな分野で世界に誇れる高い技術力を持った企業が多く立地しています。また、江戸時代に海上交通の要所として栄えた本市には、長年にわたりその伝統的

な製法が受け継がれてきた醤油、金山寺味噌のほか、なれずし、和菓子、かまぼこなど本市ならではの魅力あふれる産品がたくさんあります。

本市では、さまざまな分野で活躍する市民一人一人、企業や団体一つ一つにスポットを当て、それぞれが持つバラエティに富んだ個性や培われてきた高い技術力を輝かせることに重点を置いてまちづくりを進めています。

1万人が100回来るまち

そのような地域の魅力を市内外に発信することで、本市に誇りや愛着を持つ方を増やそうと平成29年度から「100万人が100回来る御坊」ではなく、1万人が100回来る「御坊へ」をキャッチフレーズに、地域の関係者が参画する



GO! GOBOプロジェクトのキャンピングカーイベント

「GO! GOBOプロジェクト」をスタートさせました。プロジェクトでは「花」「アウトドア×食」「宮子姫」「紀州鉄道」などのテーマをつくって、体験プログラムの開発とターゲットを定めたプロモーションを進めています。

例えば「アウトドア×食」のテーマでは、キャンピングカーのオーナーズクラブがオフ会で野口オートキャンプ場を利用していただいた際に、ICからも市街地からも近い立地と、河川敷にある広大な敷地がキャンピングカーでの活動



御坊の地名の由来となった本願寺日高別院

にびったりだということになりました。そこで、クラブのリーダーにプロジェクトチームに加わっていただき、キャンプ場を拠点に観光農園や市街地の飲食店に出掛ける遊び方をオーナー向けに発信したところ、前年比2.5倍以上の集客がありました。プロジェクトでは、今後も各チームで地域資源の持つ魅力をどんどん見つけて発信していきたいと考えています。

総活躍のまち

また、高齢化時代に合ったまち

づくりとして、平成28年度から「ごほう総活躍のまちづくりプロジェクト」に取り組んでいます。認知症になっても生き生きと活躍できる社会を目指して、本人ミーティングや本人サミットなど、認知症の方一人一人の声を大切にしながら取り組みを地域や関係機関と一体となって進めています。

プロジェクトは高い評価を受けており、NHK厚生文化事業団主催「第1回認知症にやさしいまち大賞」の受賞や「国際アルツハイマー病協会国際会議（ADI）」に参加し、認知症の方が本市のスターチスで作ったノベルティの配布も行っています。

本年4月には「認知症の人とともに築く総活躍のまち条例」を施行し、市全体で総活躍の地域づくりに取り組んでいます。

おわりに

本市のような田舎の地方都市では、都会に出た若者が故郷に帰ってこないということが一つの課題ですが、これからは故郷の魅力をしっかりと大人たちが伝えていくことが重要であり、童謡「ふるさと」の歌詞「兎追いし彼の山」「小

鮒釣りし彼の川」のように、田舎ならではの故郷の思い出を大人たちが遊びの中で子どもたちにつくってあげることが必要です。本市では、花火大会や宮子姫みなどフェスタ、きのくにロボットフェスティバルなど、多くのイベントを開催していますが、子どもたちに市の魅力を伝えることに重点を置いていきます。

プロフィール

- ◆ 面積 43・91km²
- ◆ 人口 2万3389人
- ◆ 世帯数 1万887世帯

〔将来都市像〕人と自然と産業が調和し、まちが輝き笑顔あふれる「元気なごほう」

〔まちの特徴〕海・山・川に恵まれ、太古より海運の拠点として発展してきた自然と歴史、ロマンあふれるまち

〔特産品〕醤油、金山寺味噌、紀州なれずし、温州みかん、南高梅、小玉スイカ、イチゴ、豆類（キヌサヤ、スナック）



御坊市長
柏木征夫



〔イベント〕御坊市花火大会、宮子姫みなどフェスタ、きのくにロボットフェスティバル、ごほう商工祭、「Festa Primavera」、御博（御坊日高博覧会）

〔観光〕寺内町、吉田八幡神社（宮子姫生誕の地）、観光農園、紀州鉄道、日高川水辺公園（野口オートキャンプ場）、御坊総合運動公園、S・i・o・t・o・p・新エネルギーパーク

〔エンドウなど〕花き類（スターチス、かすみ草、カーネーションなど）

日本全体で少子高齢化・人口減少が進む中、限られた財源の中で教育文化・福祉・防災・産業・都市基盤などあらゆる分野でサービスの質を維持または向上させていく必要があります。行政の努力はもちろん、住民や企業・地域と力を合わせて、オール御坊で子どもたちが自慢できる故郷づくりに取り組んでまいります。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

赤磐市(岡山県)

赤磐市長 友實武則

わが

「ひといきいきまちきらり」 住みよい、住みたい、赤磐市」の実現に向けて

認知度向上を目指して

赤磐市は、岡山県の南東部に位置し、県庁所在地である岡山市に隣接しています。南部は大規模住宅団地が造成されるなど、ベッド

タウンとして発展し、中部、北部は中山間地域を含む自然豊かな農村地域が広がっています。

平成17年の4町合併による市政施行以来、十数年が経過しておりますが、残念ながら、「赤磐（あかいわ）」と読んでもらえないなど、全国はもとより、県内でも認知度が低いのが実情です。

そこで、近年はこの状況を打破するため、近隣市町と連携したDMOの設立や、岡山市、倉敷市、総社市と共同で申請し、日本遺産に認定されたストーリーを構成する

両宮山古墳の活用によるシティプロモーションに力を入れています。

また、本市のゆるキャラ「あかいわモモちゃん」による情報発信も積極的に行っており、平成30年に実施された「ゆるキャラグランプリ」では地道な活動が実り、全国19位で県内最高位となりました。少しずつではありますが、本市の認知度向上につながっていると実感しております。

子育てするなら赤磐市

持続的に発展するまちづくりのため、平成27年度に策定した「まち・ひと・しごと創生総合戦略」では、「子育てするなら赤磐市」というスローガンを掲げ、中学生までの医療費無料、高校生までの医療費1割負担や、子育てと障がい児の相談窓口を一本化した「りんくす

テーション」の設置など、きめ細かな施策を実施してまいりました。平成30年においては、本市は転入増加、岡山県内では2位、中国地方でも5位の人口増加数となるなど、子育て世代の転入のインセンティブとなることが伺えます。

さらに、移住定住を促進し、人口減少に歯止めをかけるため、地方創生推進交付金を活用して「あかいわに戻ろうプロジェクト」として、さまざまな取り組みを実施しています。首都圏などに居住する本市出身者とのネットワークを構築し、情報共有・情報発信をしていく中で、本市へのUターン者増加を図る、また、市内小中学生に対して地域愛を育む取り組みを行うことで、将来地域を担う人材の育成を行うなど、今後も多方面からの取り組みを行ってまいります。

団地の再生を考える

本市には、1970年代に造成



岡山県では第3位の規模の古墳である「両宮山古墳」



赤磐市マスコットキャラクター「あかいわモモちゃん」

された大規模住宅団地が2カ所あり、造成当時は風光明媚なロケーションが人気の憧れの住宅団地でした。しかしながら、現在は全国の都市と同様に高齢化が進行し、空き家も目立つなどしています。

そこで、ある住宅団地をモデルに住宅団地という既存ストックを移住定住の受け皿とし、ほかの住宅団地、ひいては中山間地域においても活性化を図るためのモデルケースとするため、「団地からまちへ」というコンセプトを掲げ、若者世代の流入を促進し、世代循環を図ることにより、持続可能なまちづくりを行うための基本構想を平成30年6月に策定しました。併せて、工業団地の整備を行うなど、企業誘致にも力を入れており、職住近接が実現されることで移住定住のさらなる促進を図っております。

また、別の住宅団地内では、住民主体による市の遊休資産を活用したイベントが定期的開催されており、市内外から魅力ある出店者を集めることで、口コミで評判が広がるなど、市民の新たな交流の場となっており、新たなにぎわいが創出されています。この事例

を踏まえ、今後も引き続き公民連携によるまちづくりを推進してまいります。と考えております。

活力あるまちづくりに向けて

本年4月に、複合型介護福祉施設「あかいわハートフル太陽」が開所しました。さまざまなケースの介護福祉ニーズに対応することのできる施設となっているほか、幅広い世代の市民が集い、交流することのできる場も備えており、市民によるまちの活性化が期待される所です。

また、現在、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大



熊山運動公園（平成30年度全日本ホッケー選手権大会開催時）

会の開催に向けて、ニュージラード女子ホッケーチームの事前キャンプ地の誘致に取り組んでいます。市全体にスポーツ振興の機運の醸成を図ると同時に、市外より多くの人に、本市を知る、訪れてもらう、さらには、住んでもらうきっかけづくりとしたいと考えております。

地方分権が進展する中、持続可

プロフィール

- ◆ 面積 209・36km²
- ◆ 人口 4万4238人
- ◆ 世帯数 1万8384世帯

〔将来都市像〕ひといきいき、まちざらり。活力ある、住みよい、住みたい、赤磐市

〔まちの特徴〕豊かな自然や文化遺産に恵まれる一方で、交通網の発達により都市的な環境整備が進むまち

〔市町村合併〕平成17年3月7日、赤磐郡内の山陽町、赤坂町、熊山町、吉井町が合併



赤磐市長
友實武則



〔イベント〕城山公園まつり、熊山英園庭園まつり、赤磐市花火大会、コスモス・案山子まつり、あかいわ祭り、是里ワインフェスト、あかいわ映画祭り

〔特産品〕白桃、シャインマスカット、ピオーネ、黄ニラ、黒大豆、いちじく、朝日米、雄町米、米粉ラーメン、ワイン、日本酒、筆軸

〔観光〕両宮山古墳、備前国分寺跡、熊山遺跡、熊山英園庭園、吉井電天オートキャンプ場、吉井電天文台、桃畑、岩神のゆるぎ岩

能なまちづくりを進めていくには、市民、事業者、行政などすべての人がそれぞれの役割を担いながら、協働してまちづくりに取り組むことが必要不可欠です。

今後も、市民が積極的にまちづくりに参画することが出来る仕組みづくりを行うなど、活力にあふれるまちづくりに全力で取り組んでまいります。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。